

「インターンシップコースⅢ（海外インターンシップ）」
シリコンバレープログラム シラバス

2017年6月11日

【インターンシップコースⅢ（シリコンバレープログラム）】

- ・開講学期： 集中講義
- ・対象学年： 1年生、2年生、3年生、4年生
- ・科目種別： 選択
- ・単位数： 2単位
- ・責任者： 程子学
- ・担当教員： 王軍波・陳健・川口立喜・石橋史朗
- ・先修条件： インターンシップコースⅠ（地域インターンシップ）、Ⅱ（国内インターンシップ）、Ⅲ（海外インターンシップ）の各コースに関して先修条件はなく、また履修順序も問わない。

【概要】

「インターンシップコース」は、国内外の企業における現場体験をもとに、グローバルに活躍できる素養を身に付けることを目的とします。これにより、スーパーグローバル大学の取組み目標である「世界で活躍する革新的 ICT 人材の育成」を目指します。「インターンシップコース」では、その内容に応じて以下の3コースを提供しますが、本コースはそのうちのコースⅢに相当します。（Ⅰ・Ⅱの提供は今後予定）

- ・コースⅠ（地域インターンシップ）： 地域企業やベンチャーでのインターンシップを行うコース
- ・コースⅡ（国内インターンシップ）： 国内企業でのインターンシップを行うコース
- ・コースⅢ（海外インターンシップ）： 海外研修や海外企業でのインターンシップを行うコース

各コースは、「事前研修」「実習」「事後研修」の3つのパートからなり、「事前研修」と「事後研修」を学内において講義・演習形式で実施し、その間の期間で各研修先の現場において「実習」を行います。「実習」については、コース毎に用意されたメニューの中から、各自選択により実施内容（研修場所）を決めます。

【目的と達成目標】

<目的>

「インターンシップコースⅢ」では、海外の研修所や企業の現場において「実習」を体験することにより、グローバル ICT 人材としての素養を身に着けることを目的とします。

- (1) グローバル創業精神の獲得
グローバル化が進む ICT 分野において、国際的視野をもったビジネス展開ができる人材を目指す
- (2) 国際ビジネスへの対応スキルの獲得
国際ビジネスで必要となる課題把握・解決能力、対人関係やコミュニケーション能力を獲得する
- (3) 多様性の理解と適用力の獲得

多様な文化やビジネス習慣に対し、自己のアイデンティティを保ちつつ適用できる能力を獲得する

<達成目標>

「インターンシップコースⅢ」では、受講生は以下のスキルの習得を目標とします。

(1) 異文化の理解

海外での製品開発やビジネスの現場を体験することにより、文化や思考パターンの多様性を理解する

(2) ステークホルダの理解

企業関係者・ユーザなど海外のステークホルダとの直接体験を通じて、対応力・適用力を習得する

(3) 海外ビジネスの仕組みの理解

海外におけるビジネスルールや習慣を体験することにより、日本と異なる仕事の進め方を理解する

(4) 海外での課題把握

海外での現地特有の課題を知ることで、社会における課題の多様性と日本との相違を理解する

(5) 問題の解析と解決力の習得

海外における課題解決のアプローチを体験することで、日本との相違や国際標準の考え方を習得する

(6) 国際チームワーク力の習得

ビジネスの現場でのチームワーク体験を通じて、国際社会における協業に対する適用力を養う

(7) 国際人としての表現力の習得

現地作業を通じて、国際人としての的確なコミュニケーション能力の習得を図る

【スケジュール】

「インターンシップコースⅢ（シリコンバレープログラム）」では、実際に米国シリコンバレーで実施される「実習」の前後に、国内において講義・演習形式で「事前研修」ならびに「事後研修」を実施します。

- ・事前研修：学内と外部施設での講義・演習形式により、実習に先立って以下の準備を行います。
 - －オリエンテーション、渡航時のリスク管理、異文化理解（以上2コマ）、
 - －IoTものづくりの概要、モデリングとデザイン、Arduino入門、プロトタイプ開発キットの使い方、製作実習、成果発表（以上13コマ）
- ・実習：米国の会津大学シリコンバレーオフィスを中心に、現地における異文化体験と製品開発実習、近隣の企業訪問を行います。（2週間）
 - －Meetup Meeting等への参加による現地での開発・起業活動文化の理解
 - －現地大学や企業への訪問
 - －事前研修で開発したもののブラッシュアップ
 - －現地起業家に対する開発成果の発表、またはMakers' Fairでの展示
 - －定期的な報告の実施、受入れ先担当者への報告
- ・事後研修：学内での講義・演習形式により、実習の振り返りと報告書作成・発表を行います。
 - －実習の振り返り、実習成果まとめ、報告書作成、実習報告プレゼン、意見交換（以上2コマ）

【教科書】

特になし。講義中に必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法・基準】

以下の項目をもとに評価します。

- ・事前研修および事後研修の取組み状況（事前の計画書提出・事後の報告書提出）50%
- ・実習期間の取組み状況（実習期間中の報告書提出）50%

なお実習期間の取組み状況に関しては、受入れ先による評価も考慮します。

【履修上の留意点】

「事前研究」「実習」「事後研修」の全てを履修することで2単位が認定されます。「インターンシップコースⅢ」は「課外活動プログラム」の1カリキュラムであるため、他の「課外活動プログラム」と合わせて最大4単位まで卒業単位として認定が可能です。「課外活動プログラム」の卒業単位として申請しない場合には、取得単位は自由単位の扱いとなります。

【参考（授業ホームページ・図書など）】

特になし。